

雪氷災害軽減にむけた防災教育

雪を知り、雪氷災害を防ぐ

雪氷防災研究センター 主任研究員 山口 悟



はじめに

毎年冬になれば雪国では必ず雪が降り、降り積もった雪は雪解けが終わるまで数か月以上存在し続けます。従って他の災害が非日常的な状況で起こるのに対し、雪氷災害の危険性は雪国の日常に常に潜んでいると言えます。雪氷防災研究センターおよび同センター新庄支所では、そのような雪氷災害の特徴を踏まえ、雪氷災害軽減のための様々なレベルの防災教育を行っています。

積雪断面観測講習会

雪氷災害を防ぐ第一歩は、雪のことをよく知ることです。雪氷防災研究センターでは、毎冬日本雪氷学会と共催で、積雪断面観測講習会を実施し、雪の観測の仕方（雪質の見方や密度、雪の強さの測定方法）の講習を行っています。



写真1 積雪断面観測講習会の様子

雪氷防災講演会

場所が変われば雪の降り方も変わり、雪氷災害も変わります。現場のニーズに合った研究を進めるため、雪氷防災研究センターでは、毎年一回地域を変えて、雪氷防災講演会を開催しています。

講演会では開催地の直面する雪氷災害にあったテーマの発表を当研究所の研究者が行うとともに、周辺自治体などにも講演を依頼して、「どのような雪氷災害に困っているのか?」「それに対してどのような対策をしているのか」など地域密着型の発表をいただいています。

雪崩対策研修会などへの講師派遣

冬季の道路管理や工事をする人は常に雪崩の危険にさらされています。そのような人を対象に各団体が主催する研修会に、雪の専門家として講師を派遣し、より専門的な内容（雪崩を起こしやすい雪の見分け方や実際に雪崩にあった時の救出方法等）に関する講義や実習を行っています。

これらの取組みのほかに随時、小中学生・高校生、一般の方などの見学やインターンシップの受け入れなども行っています。またwebで、雪の量や重さに関する情報も公開するなど、身近にある雪をさらによく知ってもらうとともに、雪の危険性を認知していただき、雪氷災害の軽減に日々努めています。